



さとやま

2月に見られるいきもの



今年の1月は、下旬に10年に一度の寒波が襲来し、日本各地で大雪に見舞われ被害も大きかったようです。夏も冬も、極端なお天気が多いのは、地球温暖化の影響と言われています。そんな異常な環境でも、生き物たちは増えていく昼間の時間に合わせて、春に向かって準備を進めていきます。2月の里で見られる生き物をご紹介します。

センター付近や、里山エリア等の日当たりのよい草地では、**コハコベ**・**オオイヌノフグリ**・**ホトケノザ**などの春の花が見られます。ピオトープでは、**ヤブツバキ**も花の数が増えてきます。ハンノキ広場では、**カワラハンノキ**や、**ハンノキ**の花が咲きます。と言っても花弁などはなく長く伸びる雄花の集まりの葯が開いて、花粉を風に乗せます。中央広場では、春「ますさく」と言われる**マンサク (赤花)**がリボンのような花弁を広げます。一時数が減っていた**ヒキガエル**卵塊も少しずつ増えてきました。

こんな春の兆しを探して、里を散策してみてください。



コハコベ



オオイヌノフグリ



ホトケノザ



ヤブツバキ



カワラハンノキ



ハンノキ



マンサク (赤花)



ヒキガエル (卵塊)

里の生き物紹介

ふきのとう

早春、センター裏のエアコンの室外機付近や、職員駐車場奥のウメの木の付近にふきのとうが顔を出します。

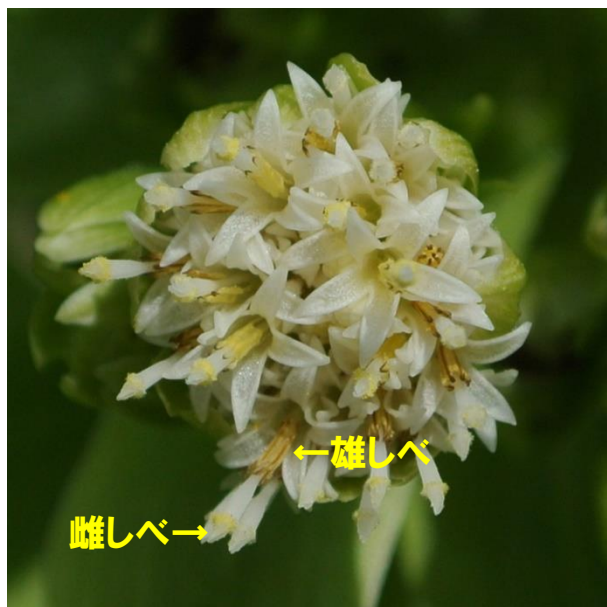


ふきのとう（踏の臺）は春の山菜として有名ですが、**キク科**に分類される多年草、**フキ**の花芽です。雌雄異株で、地中で地下茎を横に長く伸ばし、そこから葉が出ます。

早春には写真のように、地下茎から葉よりも先に花芽を出します。「臺」とは、キク科の植物の花が咲く花軸のことをさします。野菜などの花芽が伸びて、食用にならなくなることを「臺が立つ」と言います。フキも臺が立ってしまうと食べられなくなるので、多くはこの時点で収穫されますがそのままにしておくと成長して、花が咲きます。

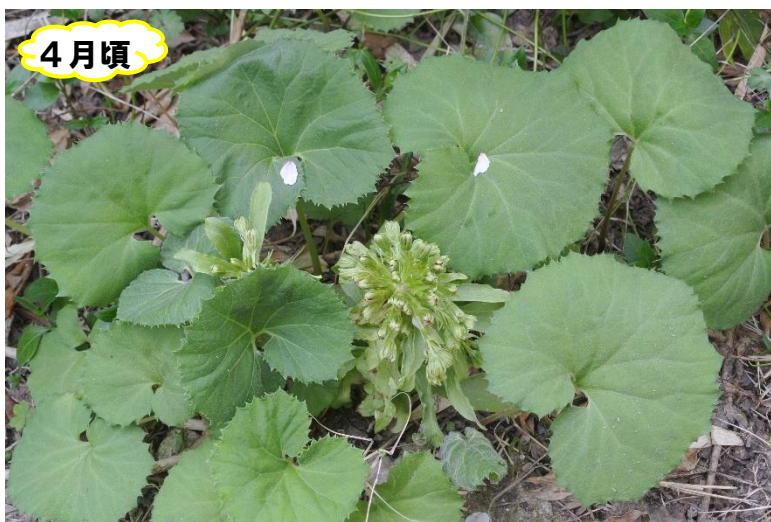


3月頃には写真のように、十数個の花が見られることもあります。



花は、花弁のない頭状花がいくつか集まって房になりそれがいくつか集まっています。雌雄異株なので、雄株には雄花、雌株には雌花がつくはずですが、この場所の花を見るとみんな同じつくりで、雄しべの中央の雌しべが棍棒状で、伸びるとき先端に雄しべの花粉をつけます。これはフキの雄花の特徴です。雌株は雄しべのない花が集まっていて、房の中央に種子ができない蜜だけを出す、雌しべの先端が5つに分かれている中性花がいくつかあり、その周りに、種子を作る蜜の出ない、雌しべの先端が2つに分かれた雌花があります。里では見つけることができませんでした。雄株の花は花粉のために、雌株の花より黄色っぽく見えるそうですが、そのような違いもないように感じられます。

雄株だけでも、地下茎で殖えて広がることができるので、雌株がないのかもしれませんが、また、里には田んぼエリアなどでフキの葉が見られるところがありますが、なぜかふきのとうはみつきりません。



4月頃になると、付近に葉が出てきます。この後、ふきのとうは姿を消しました。雌株の場合は、さらに長く成長し、花の房の茎も伸びて、やがてタンポポのような綿毛が付いた種子が現れて、風に乗って飛んでいきます。

ところで、フキには「フキノリド」という成分があります。これがフキの独特の香りのもとで、消化を助けるはたらきがあります。また、ポリフェノールが含まれていて、免疫力を高めたり細胞の若返りを促し、痰切り・咳止めに効果があります。各種ビタミン・ミネラルもあり、栄養豊富です。

ところが毒性もあるので、生食はできません。全草にあるピロリジジンアルカロイドは、たくさん摂ると発がん性や、肝臓障害の可能性がありますが、熱に強いですが、水に溶けやすいので、フキの葉の軸を食べるときは茹でこぼしてあく抜きすることが必要です。

フキノトウにはフキノトキシシンという肝毒性の強い物質があります。熱に弱いので、おひたしや、天ぷらにして食べます。この毒は地下茎にもあります。地下茎は地表に出ると緑色になって、ワサビと間違えて食べられてしまうことがあるそうです。

また、雄花の花粉でアレルギー反応を起こす場合があるそうです。キク科の花粉にアレルギーのある人は要注意です。

早春の里で、ふきのとうを探してみてください。ただし、里は生き物の採取は禁止です。花の成長を観察してください。

早春の里で、ふきのとうを探してみてください。ただし、里は生き物の採取は禁止です。花の成長を観察してください。

1月の行事紹介



「お花炭を焼こう」の講座を1月15日(日)に開催しました。

参加者は、初めて体験する人がほとんどで、火の取扱いなどの注意事項を受けてから、屋外へお花炭の材料採取に出発しました。

講座の前日は雨が降り、材料となる草木は湿っていましたが採取し、きれいに焼けるか心配しながら、事前に用意された材料と一緒に缶詰めしました。

屋外に用意された薪の火の上にお花炭の材料を入れた缶を乗せ、適時、缶の向きを変えながら1時間ほどで焼き上がりました。焼き上がるまでの間に、お花炭を飾り付ける器の竹をナタで半分に割り、バランスよく飾れるよう竹を加工しました。

上手に焼き上がるか心配していましたが、とても美しくきれいに出来上がり、感動・大満足でした。

2月の行事予定

18日(土)	竹炭焼きⅠ(竹きり、竹割り、窯入れ)	20名	AM9:00~11:00	神本晃・河野俊治
19日(日)	竹炭焼きⅡ(火入れ)	20名	AM9:00~11:00	神本晃・河野俊治
26日(日)	竹炭焼きⅢ(窯出し)	20名	AM9:00~11:00	神本晃・河野俊治

内容～里山の竹林で竹を切り、窯に入る大きさに竹を切って、丁寧に窯の奥から詰めます。

内容～窯に火を入れます。火を絶やさないう約7時間一定の温度で焼き上げます。

内容～いよいよ窯出し。竹炭は、そったり、ねじれたりして自然素材ならではの面白みがあります。

- ◇ **参加受付**は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその家族までとします。なお、申込者が**6名以下**の場合は開講しません。
- ◇ **参加申込者**は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◇ **当日の天候や新型コロナウイルス感染症の拡大防止**のため、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、**参加費は無料**ですが、講座により**材料費は実費**を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ **各講座の詳細な内容**については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課